

第 10 回 大阪蘇生アカデミー開催概要

テーマ: 温故知新 蘇生の未来を考えよう

開催日: 2022 年 12 月 6 日(火)

会場: AP 大阪駅前 B2F「AP ホール」+Zoom Webinar によるハイブリッド開催

内容:

午前の部では、『院外心停止記録を活用した研究 次の 10 年に向けて』をテーマにそれぞれの研究課題を担う演者より、『SOS-KANTO2017 study』、『CRITICAL study』、『ハイパフォーマンス CPR』、『岐阜県の指令員教育』、『SAVE-J II study』、『R-CASTOHCA study』についてご講演いただいた。講演後にはディスカッションの時間を設け、各演者に加え厚生労働省、総務省から迎えたコメンテーターを交え、積極的な議論を行った。議論の中ではレジストリの今後の展開や質のデータの重要性、今後の蘇生教育の在り方、介入研究の困難さなど活発な議論がなされ、院外心停止記録の有効活用に関する知見を共有した。

午後の部では、特別講演『~大阪蘇生アカデミーのこれまでの歩み~蘇生科学これからの 50 年に向けて』、シンポジウム『これからの蘇生』において大阪、日本、世界で行われている取り組みに関して紹介していただいた。シンポジウム第一部では現在シンガポールで活動している演者を招き、シンガポールの救急医療が、IT の有効活用という点で日本に比べて大きく進んでいる現状を紹介していただいた。また『にいがた救命サポーター制度』の取り組みや、大阪大学医学生による蘇生率向上に向けたアイデアや取り組みの紹介もあり、質疑応答でも多くの質問が寄せられ、関心の高さが伺われた。シンポジウム第二部では『DX』、『遺伝カウンセリング』、『神経集中治療』に関してそれぞれの分野で先進的な研究を行っている演者から講演をいただいた。こちらに関しても関心は非常に高く、内容そのものについてだけでなく日本で実用化する際に乗り越えるべき課題に関しても活発な議論が行われた。

また、本年度初の試みとして、旭化成ゾールメディカル共催のもとでランチョンセミナーを行い、ハイパフォーマンス CPR に関して講演をいただいた。

成果:

本年度は COVID-19 パンデミックによる社会活動制限が緩和されたことを受け、初の試みとして現地開催と Zoom webinar によるハイブリッド開催を行った。救急救命士を主な参加者としつつも、医師、看護師、学生など様々な職種から 800 人を越える参加申し込みがあった。当日は常時 300 件以上のアクセスをいただき、一時的には 500 件を越える同時アクセスを得た。結果として当日も 700 名以上の参加者に全国よりアクセスいただき、本会の内容が広く救急に携わる皆さまの知識に還元される会となった。本会終了後のアンケ

ートの結果からは、大変多くの参加者が本会に満足し、次回の開催を期待している事を窺い知ることもできた。

<主催> 特定非営利活動法人 大阪ライフサポート協会

<後援> 大阪府、大阪府下消防長会、公益財団法人日本 AED 協会

<共催> 大阪医科薬科大学 救急医学教室

大阪公立大学医部附属病院 救命救急センター

大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター

関西医科大学附属病院 高度救命救急センター

京都大学大学院医学研究科 予防医療学分野

<協賛>

(順不同) 旭化成ゾールメディカル株式会社、株式会社フィリップス・ジャパン、日本光電工業株式会社、日本メディカルネクスト株式会社、日本ストライカー株式会社、オムロンヘルスケア株式会社、レールダルメディカルジャパン株式会社、株式会社ドーン、株式会社三和製作所

連絡先

(住所) 〒533-0033 大阪府大阪市東淀川区東中島 1-17-5 ステュディオ新大阪 416 号

(氏名) NPO 法人 大阪ライフサポート協会 事務局

(電話・FAX番号) TEL : 06-6370-5883 FAX : 06-6370-5884

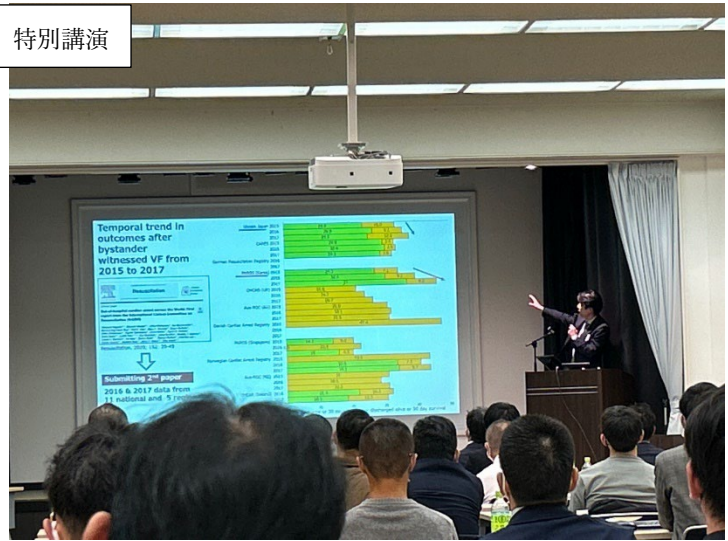
当日写真



ランチョンセミナー



特別講演



午後の部：開会挨拶



午後の部：第一部総合討論



午後の部：第二部総合討論



午後の部：閉会挨拶



会場の様子



会場の様子



演者、実行委員集合写真



企業展示：旭化成ゾールメディカル



企業展示：日本光電



企業展示：レールダルメディカルジャパン



企業展示：日本ストライカー

